研究・調査報告書

報告書番号	担当
１９４	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門

題名（原題／訳）

Alcohol consumption and the 15-year cumulative incidence of age-related macular degeneration.

アルコール消費と加齢性黄斑変性症における 15 年間累積発症率

執筆者

Knudtson MD, Klein R, Klein BE.

掲載誌（番号又は発行年月日）

Am J Ophthalmol. 2007 Jun;143(6):1026-9.

キーワード

アルコール、加齢性黄斑変性症

要　旨

背景：

アルコール消費が 15 年間の加齢性黄斑変性症の累積発症率及び進展に与える影響について検討した。

方法：

ウィスコンシン州 Beaver Dam の一般市民 3509 名を対象に 5 年間の間隔をあけて 4 回の検査をおこなった。1988 年に初回の調査を行った。アルコール摂取歴は質問紙によって聴取した。加齢性黄斑変性症は眼底撮影によって評価を行った。

結果：

多量飲酒者(毎日 4drink 以上)は男性の 15 年目の地図状萎縮と関連した(odds ratio=9.2, 95%CI:1.7-51.2)。ビールやワイン、蒸留酒などと加齢性黄斑変性症の発症及び進展との関連は認められなかった

結論：

アルコール摂取は加齢性黄斑変性症のリスクの強い上昇または減少の因子ではなさそうである。